

# エリザヴェータ・バーム

## (舞台のバリエント)<sup>1</sup>

### 1. リアルなメロドラマ。

舞台設定：奥行きのない、ありふれた部屋。

エリザヴェータ・バーム (El.B.)

いまにドアが開いて、あいつらが入って来るわ…きっと来る。わたしを捕まえ、殺しに来る。(シンとする。) わたしは何したって言うの！ 何を！ それが分かればいいのに…逃げようか？ (歩く。) でもどこへ？ このドアは階段に通じてるけど、階段であいつらと鉢合わせになっちゃう。窓は？ (窓を見る。) ああ、高くて！ 跳びあがっても駄目ね！ じゃあどうすればいいの？ …あ！ 足音！ あいつらだわ。ドアを閉めて、開けないようにしなくっちゃ。好きなだけ叩かせておけばいいわ。

ドアをノックする音、それから声 (威嚇的)

エリザヴェータ・バーム、開けなさい！

エリザヴェータ・バーム、開けなさい！

舞台裏。遠くからの声 変ですね。あっちで何をしてるんでしょう。開けてくれないんじゃないですか？

ドアの後ろの声 開けてくれますよ。エリザヴェータ・バーム、開けなさい！

エリザヴェータ・バームはベッドに身を投げだし、耳をふさぐ。

ドアの後ろの声

一人目の声 エリザヴェータ・バーム、いますぐドアを開けなさい！

二人目の声 (穏やかに) さもなければドアを壊す、と言っただけがでしよう。私がやってみましょうか。

一人目の声 (威嚇的に) ドアを壊しますよ。あなたがすぐに開けなければね。

---

<sup>1</sup> 『エリザヴェータ・バーム』のテキストには、「舞台」と「文学」二つのバリエントがある。ここに訳出した「舞台」のバリエントには、リハーサルの際に書き入れられた、作者によるト書きが数多く残っている (本文ではイタリック体)。ハルムス自身はこの舞台用のト書きを実際に上演する際の参考メモ程度に見ており、ベースはあくまで「文学」のバリエントだと考えていたようだ。しかし資料的価値は高く、戯曲を理解する助けとなるため、こうして翻訳することにする。

二人目の声 (穏やかに) ひょっとしてここにいないんじゃない？

一人目の声 (穏やかに) ここにいます。いったいどこへ行ったっていうんですか？ 彼女はこの階段を、上へ逃げていったんですよ。ドアはひとつしかありません。どこに隠れますか？ (大声で) エリザヴェータ・バーム、あなたに言っているんですよ。

エリザヴェータ・バームが頭を持ちあげる。

(語頭を強く響かせながら) これが最後です。ドアを開けなさい。(間) 壊すんだ。

ドアを壊そうとする。エリザヴェータ・バームが舞台中央に走りでて、聞き耳をたてる。

二人目の声 ナイフはお持ちですか？

ドンと叩く。エリザヴェータ・バームは前のめりになって聞いている。

一人目の声 ありません。肩をお使いなさい。

二人目の声 それでは壊れません。ちょっとお待ちを。もう一度やってみます。

ドアがミシミシ音を立てる。しかし壊れない。

El.B. あんたたちなんかに開けてやらないわ。わたしをどうするのか、教えてもらうまではね。

エリザヴェータ・バームが喋っているあいだ、叩く音は止んでいる。

一人目の声 ご自分の身に何が迫っているか、ご存知でしょう。

El.B. 知らないわ。わたしを殺すつもり？

同時に { 一人目の声 厳罰に処せられるのです！

二人目の声 われわれから逃げようとしても無駄です！

El.B. わたしがどんな罪を犯したのか、教えてくれてもいいんじゃないかしら。

一人目の声 ご自分でご存知でしょう。

El.B. 知らないわ。(地団太を踏む。)  
一人目の声 あなたにはお教えしません。  
二人目の声 あなたは犯罪者です。  
El.B. はははは！ じゃあ、もしわたしを殺しても、あんたたちは自分の良心が傷つかないって思ってるわけね？

走って横切る。

一人目の声 自分の良心と照らし合わせたうえで実行します。  
El.B. ああ、そうだとしたら、あんたたちに良心なんてないわ。

## 2. リアルなコメディのジャンル。

二人目の声 良心がないとはどういうことですか？ ピョートル・ニコラーエヴィチ、われわれには良心がないと、彼女は言ってますよ。

エリザヴェータ・バームは立ちあがり、両手を両足にくっつけ、ドアのほうへ首を伸ばす。

El.B. イワン・イワーノヴィチ、あなたにはね、良心なんてひとかけらもないわ。ただのペテン師よ。  
二人目の声 誰がペテン師だって？ 私？ 私ですか？ 私がペテン師だって！？  
一人目の声 ちょっとお待ちなさい、イワン・イワーノヴィチ！  
エリザヴェータ・バーム、ドアを開け…  
二人目の声 いやです。ピョートル・ニコラーエヴィチ、私はペテン師ですか？ ボプチンスキー<sup>2</sup>。  
一人目の声 いいから怒らないでください！ エリザヴェータ・バーム、ドアを…  
二人目の声 いやです。ちょっと待ってください、ピョートル・ニコラーエヴィチ、私がペテン師だとおっしゃるんですか？  
一人目の声 いいからやめてください！  
二人目の声 まあいいでしょう。あなたのお考えでは、私はペテン師なわけですね？

---

<sup>2</sup> やや唐突に書きこまれている「ボプチンスキー」は、ゴーゴリの戯曲『査察官』（『検察官』とも訳される）の登場人物の名前。もうひとりの登場人物ドプチンスキーと対になっている。丸々肥えており、滑稽な役回りを演じる。1928年1月24日に『エリザヴェータ・バーム』が上演された出版会館では、その少し前に、未来派詩人テレンチエフの演出で『査察官』が上演されている。イワン・イワーノヴィチはボプチンスキーに擬せられ、戯曲は滑稽な色彩を帯びはじめる。

一人目の声　そうです、ペテン師です！！

二人目の声　なるほど。つまりあなたのお考えでは、私はペテン師というわけだ！　あなたはそうおっしゃるんですね？

エリザヴェータ・バームは舞台を走り回る。

一人目の声　むこうへ行きなさい！　木偶の坊！　そして責任ある仕事にかかるんです！　言いましたよね。ところがあなたときたら、いきり立つ始末です。どうしたっていうんですか？　ただの白痴じゃないですか！

二人目の声　じゃあ、あなたはイカサマ師だ！

一人目の声　むこうへ行きなさい！

El.B.　　イワン・イワーノヴィチはペテン師！

二人目の声　あなたにそんなこと言わせませんよ！

一人目の声　今すぐ階段から突き落としますよ！

エリザヴェータ・バームがドアを開ける。イワン・イワーノヴィチ (I.I.) は松葉杖をついている。ピョートル・ニコラーエヴィチ (P.N.) は頬に包帯を巻いて、椅子に腰かけている。

I.I.　　突き落としてごらんください！

P.N.　　落としてやる、落としてやる、落としてやる、落としてやる！

El.B.　　できっこないわ！

P.N.　　できっこない？　私が？

同時に { El.B.　　そうよ！  
I.I.　　あなたですよ！　あなた！ } ねえ、彼のことでしょね？

イワン・イワーノヴィチがピョートル・ニコラーエヴィチを指さす。

El.B.　　そうよ！

P.N.　　エリザヴェータ・バーム、あなたにそんなことを言う権利はありません！

El.B.　　どうして？

P.N.　　声をすべて奪われているからです。忌むべき罪をあなたは犯しました。私に向かって破廉恥な物言いをしてはいけません。あなたは罪人なんですよ！

El.B.　　どうして？

P.N.　　どうしてとは？

- El.B. どうしてわたしが罪人なの？  
P.N. 声をすべて奪われているからです。  
I.I. 声をすべて奪われているんです。  
El.B. でもわたし、奪われてなんかないわ。時計で確認できるわよ。

舞台の背景が後ろへ遠ざかることで、イワン・イワーノヴィチとピョートル・ニコラーエヴィチは、ドアのなかへ入ってゆく。

### 3. 馬鹿げていて、滑稽で、素朴な断章。

- P.N. まっとうな務めはここまでです。ドアの前に見張りを立たせておきました。イワン・イワーノヴィチをちょっとでも小突いたら、わきを向いてしゃっくりしますよ。  
El.B. 見せてちょうだい。お願い、見せて。  
P.N. さあ、ごらんあれ。横を向きなさい。

ピョートル・ニコラーエヴィチが幕の前まで歩いてゆく。イワン・イワーノヴィチが後につづく。いち、に、さん。(台座を押す。イワン・イワーノヴィチは大きなしゃっくりをかます。台座の向きを変える。)

- El.B. もう一回やって。お願い。

くり返す——ピョートル・ニコラーエヴィチはまた台座を押し、イワン・イワーノヴィチはまたしゃっくりする。

どうやってるの？

- P.N. 造作もないことです。イワン・イワーノヴィチ、見せてやりなさい。  
I.I. 喜んで。

四つん這いになって、片足で空を蹴る。

- El.B. ほんとに素敵ね。(叫ぶ) ママ！ こっち来て！ 手品師がいらしてるわ！  
もうすぐママが来るわ…お友達になってくださいね、ピョートル・ニコラーエヴィチ！ イワン・イワーノヴィチ。——  
何か見せてくださらない？  
I.I. 喜んで。  
P.N. よし、ゴー！

イワン・イワーノヴィチは逆立ちしようとして、倒れる。

P.N. 早く！ 早く！

パパとママが舞台に登場。座って見ている。

I.I. (床に座りこみながら) ここには支えてくれるものがありませんね。

El.B. (ふざける) もしかしてタオルが欲しいの？

I.I. どうしてです？

El.B. ただ何となく。ヒヒヒヒ。

I.I. あなたを見てると、うっとりしますね。

El.B. あらそうなの？ なんでかしら？

I.I. ウィィィィィ あなたは勿忘草だからですよ (大きなしゃっくりをする)。

El.B. わたしが勿忘草？ほんとに？ じゃああなたはチューリップね (鼻にかかった声で「チューリップ」と言う)。

I.I. 何ですって？

El.B. チューリップ。

I.I. (ためらいがちに) 大変光栄であります。

El.B. (鼻にかかった声で) あなたを摘ませてくださいな。

父親 (低い声で) エリザヴェータ、悪ふざけはよしなさい。

El.B. (父親に) もうしないわ。

エリザヴェータ・バームはしゃがんで膝を抱える。

(イワン・イワーノヴィチに鼻にかかった声で) 四つん這いになってちょうだい。

ピョートル・ニコラーエヴィチがパパとママのほうへ行く。ママはどこか不機嫌らしく、前舞台へ歩みでる。

I.I. エリザヴェータ・ゴキブリノヴナ、申し訳ありませんが、帰宅してもよろしいでしょうか。家で妻が、帰りを待っております。子供が大勢いるんです、エリザヴェータ・ゴキブリノヴナ。ひどく退屈されたでしょう、申し訳ありませんでした。私のことをお忘れにならないでください。私はだれからもこづき回されるような人間です。どうしてでしょう？ 泥棒だっていうんですか？ 違うじゃないですか！ エリザヴェータ・エドゥアルドヴナ、私は正直な人間です。自宅には妻がおります。妻には子ども

もが大勢います。皆いい子で、どの子もマッチ箱に噛りついています。もう私を放免してください。エリザヴェータ・ミハイロヴナ、家に帰ります。

イワン・イワーノヴィチは毛皮外套を着て、退場。  
エリザヴェータ・バームはママの足にロープを結び、もう一方の端を椅子に結びつける。全員沈黙。

ママが音楽に合わせて歌う：

ほら、朝がパッと輝いた。  
水は赤く染まり、  
カモメは湖上を颯爽と飛んでゆく<sup>3</sup>  
云々かんぬん

ママは歌い終わると、椅子を引きずりながら、元いた場所に戻る。

P.N. さあ着きましたよ！

パパ ありがたいことだ！

退場。

4. リアルな断章。日常的で、滑稽なジャンル。

El.B. そういえば、ママ、本当にお散歩に行かないの？

ママ あんたは行きたいの？

El.B. とっても。

ママ ダメ、行かないわ。

El.B. 行きましょうよ、さああああ。

ママ よし行きましょう、行きましょう。(退場。)

舞台は空。

5. リズミカルな断章。(ラジクス<sup>4</sup>。) 作者のリズム。

---

<sup>3</sup> 革命前(1917年以前)に人気のあったロマンス『カモメ』の冒頭部分。

<sup>4</sup> 「ラジクス」とは、「オベリウ」結成前にハルムスが所属していた演劇グループの名称。主に国立芸術史研究所の演劇科の学生たちによって構成されており、メンバーの多くは、そのまま「オベリウ」に移った。「ラジクス」での経験は、『エリザヴェータ・バーム』の執筆や演出に大きな影響を与えている。なお「ラジクス」とは、「radix 根っこ」と

II.と P.N. (駆けこみながら)

どこだ、どこだ、どこだ。  
エリザヴェータ・バーム、  
エリザヴェータ・バーム、  
エリザヴェータ・バーム。

P.N. ここだ、ここだ、ここだ。

II. そこだ、そこだ、そこだ。

P.N. イワンさん、われわれは、いったいどこに、来たのやら？

II. ピョートルさん、われわれは、閉じこめられて、いたんです。

リズムの  
ある詩

P.N. そりゃひどい！ 叩かないでよ、ぼくのこと！

II. やれやれだ、もうたくさんです。5時5分前！

P.N. エリザヴェータ・バームはどこですか？

II. 彼女に何の用があるんですか？

P.N. 殺すんですよ！

歌うように

II. ふむ、エリザヴェータ・バームは  
あちらのベンチに座ってますよ。

P.N. 大急ぎで行きましょう！

二人は同じところを駆け回る。

ピョン、ピョン

足あげて

日が沈む

山のむこうに

バラ色の雲のむこうに

シュツ、シュツ

蒸気機関車

ホオ、ホオ

大ミミズクが啼く

丸太が！——

——のこぎりで切られてる。

前舞台に薪が運ばれる。その間ピョートル・ニコラーエヴィチとイワン・イワーノヴィチは走り回り、薪をのこぎりで切る。

## 6. 日常的ラジクス

袖幕が端に寄せられている。うしろにエリザヴェータ・バームが座っている。

---

「radical ラディカル」を含意する造語と見られており、「純粹劇」かつ「実験劇」を志向していた。

- El.B. わたしを探してらっしゃるの？  
P.N. そうです！ ワーニカ、ここにいたよ！  
I.I. どこだ、どこだ、どこだ？  
P.N. ここだよ、ファルルーシカの下！<sup>5</sup>

乞食が舞台に登場。

- I.I. 彼女を引きずりだすんだ！  
P.N. 出てこないぞ！  
乞食 (エリザヴェータ・バームに) 同志、お恵みを。  
I.I. (どもりながら) こ、この次は、ぼくの経験値が、あ、上がってるはず。きっかり全部、わ、分かったよ。  
El.B. (乞食に) 何もないのよ。  
乞食 1 コペイカでいいんで。  
El.B. あのおじちゃんに聞いてごらんなさい。(ピョートル・ニコラーエヴィチを指さす。)

車輪つきの机が舞台に出現。エリザヴェータ・バームはその机に椅子を寄せ、座る。

- P.N. (イワン・イワーノヴィチに、どもりながら) おい、な、何してる！  
I.I. (どもりながら) ね、根っこを掘りだしてるんだ。  
乞食 お恵みを、同志。  
P.N. (乞食に) さあ、あん中でも入ってる。  
I.I. 砂利でも掘んでろ。

乞食は袖幕の下へ潜りこむ。

- P.N. 大丈夫。あいつならできるさ。  
El.B. ふたりとも座って。いかが？ (間)  
I.I. ありがとう。

---

<sup>5</sup> 「オベリウ」のメンバーの一人バーフテレフによる造語。ある夜、ハルムスと一緒にその自宅付近を歩いていたとき発見した、丸くてどっしりとして名前の分からない不思議なものを、バーフテレフは「ファルルーシカ」と名付けた。1928年1月24日の出版会館での上演の際には、具体的な何かをかたどったのではない、無対象彫刻が舞台に置かれていた。上演に先駆けておこなわれた詩の朗読時に、ザボロツキー（「オベリウ」のメンバー）がそれを改めて「ファルルーシカ」と命名した。舞台上に見えているのはこの場面だけで、他の場面では袖幕に隠されている。

P.N. お言葉に甘えて。

座る。沈黙。スープを飲む。

El.B. うちの亭主が遅れてるみたいね。一体どこ行っちゃったんだろう。

P.N. 来るさ。(とびあがって、舞台を突っ走る。) どけどけ!

II. ははは。(ピョートル・ニコラーエヴィチのあとを追って走る。) お家はどこかな?

6

El.B. ほらここよ、この線のむこう。

パパが羽根を持って、舞台に登場。

P.N. (イワン・イワーノヴィチにタッチする) お前がオニだ!

El.B. イワン・イワーノヴィチ、ここまでおいで!

II. ははは、ぼく足がない!

P.N. そんならお前は、四つん這いだ!

パパ 誰に書かれたかについて。

El.B. 誰がオニ?

II. ははは、ぼくズボンはいてる!

P.N.と El.B. はははは!

パパ コペルニクスは最も偉大な学者だった。

II. (床に倒れる) ぼく頭に毛が生えてる!

P.N.と El.B. はははは、はははは!

II. ぼく床に寝そべってる!

ママが舞台に登場。

P.N.と El.B. ははははは!

El.B. ああ、もうダメ!

パパ 鳥を買うときは、歯が生えてないか確かめなさい。もし歯があれば、それは鳥じゃないんだよ。(退場。)

7. ラジクスによって強調された、壮大なメロドラマ。

---

<sup>6</sup> 子供の遊びの決まり文句。ここからしばらく遊戯が続く。

P.N. (手を挙げて) 私の言うことを、どうか心してお聞きください。不幸とは押しなべて、思いがけないときにやって来るのだということを、証言いたしたく存じます。

私がまだほんの若造だった頃、ドアがキイキイと軋む、小さな小屋に暮らしておりました。その小屋に住んでいたのは私一人でした。ほかには、ネズミとゴキブリがいるだけでした。ゴキブリは至るところに現れます。夜になると、戸締りをして、ランプの灯りを消しました。眠りにつくとき、何も怖くありませんでした。

舞台裏の声 何も！

ママ 何も！

舞台裏の笛 I-I<sup>7</sup>

II. 何も！

ピアノ I-I

P.N. 何も！ (間)

何も恐れるものはありませんでした。なるほど、強盗がやってきて、家中くまなく物色して回るかもしれません。何か発見できるでしょうか？ 何も。

舞台裏の笛 I-I (間)

P.N. 真夜中に、ほかの誰が私のもとへ忍びこんで来れるでしょう？ 誰もいないんですよ？ そうでしょう？

舞台裏の声 誰もいないのに？

P.N. そうでしょう？

でもある日、目を覚ますと…

お互い遮り合う<sup>8</sup>。

II. —…見ると、ドアが開いているのです。そして戸口には、女性が立っています。私は穴の開くほど見つめました。彼女は佇んだままです。かなり明るくなっていました。もうじき朝のはずです。いずれにしろ、顔がよく見えました。それは、この人でした。(E.L.B.を指さす。) そのとき彼女は…

全員 私に似ていた！

---

<sup>7</sup> 楽器が演奏されていることを示す、ハルムス独自の記号。たとえば「♪」のような記号(音符)と同じものと考えてよい。

<sup>8</sup> ピョートル・ニコラーエヴィチとイワン・イワーノヴィチが互いに遮り合う。まるで人格が入れ替わったように、イワンはピョートルの台詞を引きとる。ゴーゴリ『査察官』のドプチンスキーとボプチンスキーや、ベケット『ゴドーを待ちながら』のエストラゴンとウラジーミルのように、二人は明らかに分身関係にある。

- II. …我言う、ゆえに我あり。<sup>9</sup>  
El.B. 何をおっしゃってるの？  
II. 我言う、ゆえに我あり。そのあとは、もう手遅れだと思います。彼女は私の言うことを聞いています。

エリザヴェータ・バームとイワン・イワーノヴィチを除く全員が退場。

私は彼女に尋ねました。どうやってやったのかと。サーベルを交えたのだと彼女は言います。二人は正々堂々と勝負しました。しかし彼を殺した咎は、彼女にはありません。なあ、おまえは何のために、ピョートル・ニコラーエヴィチを殺したんだ？

- El.B. ウラー！ わたし誰も殺してないわ！  
II. いきなり人間をバッサリとは！ 油断も隙もあつたもんじゃない！ ウラー！  
おまえがやったんだ。でもどうして？

#### 8. 高さの移動

- El.B. (舞台袖へ行き、そこから) ウウウウウウウウウウウウウ。  
II. 雌狼。  
El.B. ウウウウウウウウウウウウ。  
II. メエエエエス狼。  
El.B. (震える) ウウウウウ——プルーン。  
II. ひいいい婆さん。(手をおろす。)  
El.B. 感激！  
II. 未来永劫破滅！(指をおろす。)  
El.B. 黒い馬、その上には兵士！<sup>10</sup>  
II. (マッチに火を点ける) かわいいエリザヴェータちゃん！(イワン・イワーノヴィチの手が震えている。)  
El.B. 日の出みたいな、わたしの肩！(椅子の上によじ登る。)  
II. (うずくまる) キュウリみたいな、ぼくの足！

<sup>9</sup> 直訳すれば、「私は存在するために話すのです」。『エリザヴェータ・バーム』に詳細な注釈と解説を付したメイラフによれば、この台詞はデカルトの「我思う、ゆえに我あり」やソクラテスの「生きるために食べよ」といった言葉の言い換えでもある。

<sup>10</sup> 「ヨハネの黙示録」第6章第5節には、「黒い馬、その上には騎士(…)」という記述がある(ただし邦訳のなかには、「騎士」という単語が訳されていないものもある)。なお、ロシアの革命家でありテロリストでもあったロープシン(本名サヴィンコフ)が、1923年に『黒い馬』(邦訳は『漆黒の馬』)という小説を書いている。ハルムスの父親は、かつて皇帝暗殺を企てた革命家集団の一員であったことから、ハルムスがロープシンの小説を意識していた可能性もある。

- El.B. (上へとよじ登る) ウラー！ わたし何も言わなかった！
- I.I. (床に寝そべる) そう、そう、何も、何も、グ。グ。プシ。プシ。
- El.B. (手を挙げる) クーニーマーガーニーリーヴァーニーバウウウ！<sup>11</sup>
- I.I. (床に寝ている) ネコのムールカ  
 ミルクにケチつけ  
 クッションとびのり  
 ペチカにとびのる  
 とんだ、とんだ。  
 ぴょんこ、ぴょん。
- El.B. (叫ぶ) ギイイ くぐり戸！ シャツ！ ロープ！
- I.I. (起きあがる) 大工が二人走ってきて、どうしたんだと訊いてくる。
- El.B. 古井戸！ シャルロッタ・セミョーンナ！<sup>12</sup>
- I.I. (叫び、歯を食いしばる) 踊り子が綱渡あああ！
- El.B. (椅子から飛びおりる) わたし全身かがやいてる！
- I.I. (部屋の奥へ走る) この部屋の容積はぼくらには分からない。

背景が部屋から田園風景へと変わる。袖幕からパパとママが出てくる。

- El.B. (反対側の舞台袖へ走る) 家族の問題よ！

## 9. 田園風景の断章

- I.I. (椅子に飛び乗る) ペンシルバニアの羊飼いたちの長閑な暮らあああ！
- El.B. (別の椅子に飛びのる) イワン・イワアアア！
- パパ (小箱を指さす) 小箱はもくせえええ！
- I.I. (椅子から) まだああ！
- パパ 見てみなさああ！
- ママ おおおい！
- El.B. キノコを見つけえええ！
- I.I. 湖に行きましょう！
- パパ おおおい！

<sup>11</sup> ハルムス全集では「クーニーマーガーニーラ лаヴァーニーバウウウ！」となっており、「リ ли」が「ラ ла」と表記されている。

<sup>12</sup> 原文では「カツレツ！ ワルワーラ・セミョーンナ！ Коплеты! Варвара Семённа!」だが、これは直前の自身の台詞「ギイイ くぐり戸！ シャツ！ ロープ！ Дзы калитка! Рубашка! верёвка!」に含まれる各単語とわずかに共鳴しているように聞こえるので、音響的側面に配慮して意識した。

El.B. おおおい！

II. きのう、コーリカに会いましたよ！

ママ 本当なのおお？

II. はい、本当です。会いましたよ、会いました。見ると、コーリカがリンゴを持って歩いてきます。おや、買ったのかい？ 私が訊きます。ああ、買ったよ。彼が答えます。そしてすぐに行ってしまいました。

パパ ちょっとすいませんがあああ！

II. やれやれ。私は尋ねました。なんだ、リンゴは買ってたのかい、それとも盗んでたのかい？ 彼が答えます。どうして盗んだりするんだ？ 買うんだよ。そして、脇目もふらずに行ってしまいました。

ママ いったいどこへ行ったのかしら。

II. 分かりません。彼は盗ってません。買ってません。脇目もふらずに行ってしまいました。

#### 10. 傍白、二重に意図された断章

パパ 必ずしも心から歓迎したわけではないが、妹は、もっと開かれた場所に妹を案内した。そこには金のテーブルと安楽椅子が山と積まれており、15 人くらいのうら若き乙女たちが、手近なものに腰かけて陽気におしゃべりしていた。この乙女たちは皆、熱いアイロンがなんとしても必要で、目をぐるぐる回すという不思議な仕草で際立っていた。そしておしゃべりするのを片時もやめないのだった。

小間使い登場。食べ物の入った籠とテーブルクロスを持ち去る。

#### 11. スピーチ

II. 諸君、ここにわれわれは勢揃いした。ウラー！

El.B. ウラー！

ママとパパ ウラー！

II. (震える手でマッチに火を点ける) 諸君に申し上げたいのは、私が生まれてから 38 年が過ぎたということだ。

パパとママ ウラー！

II. 同志たちよ。私には家がある。家には妻がいる。妻にはたくさんの子どもがいる。数えてみたら——10 人だ。

ママ (足踏みする) ダリヤ、マリヤ、フョードル、ペラゲーヤ、ニーナ、アレクサンドル、その他 4 名。

パパ 全員男の子か？

## 12. チナリの断章<sup>13</sup>

El.B. (舞台の周りを駆け回る)

逃げてきたわ、世界中から！

逃げて駆けだしたわ！

逃げてきたわ、さあ走るのよ！

ママ (エリザヴェータ・バームの後を追いかける) パン食べる？

El.B. スープ食べる？

パパ 肉食べる？ (走る。)

ママ 粉食べる？

## 幕間-瀑布間<sup>14</sup>

II. 蕪食べる？

El.B. <sup>マトン</sup>羊肉食べる？

パパ カツレツ食べる？

ママ ああ、足が疲れた！

II. ああ、手が疲れた！

El.B. ああ、ハサミが疲れた！

パパ ああ、バネが疲れた！

舞台裏でコーラスがオペラの序曲を歌う。

ママ バルコニーのドアが開いてる！

II. 4階まで軽く跳んでみたいのですが！

El.B. 逃げて駆けだしたわ！

逃げてきたわ、さあ走るのよ！

---

<sup>13</sup> ハルムスと盟友ヴヴェジェンスキーは、1925-1926年にかけて「チナリ」と名乗った。

<sup>14</sup> 直訳すれば、「Антракт-кагаракт 幕間-瀑布」。ヴヴェジェンスキーが考案したという言い回し。『エリザヴェータ・バーム』には幕間がないが、ここで「幕間-瀑布」と書かれたプラカードが舞台に持ちだされると、エリザヴェータ、パパ、ママはぐるぐる駆け回るのをやめたという。一分程してプラカードが舞台の外に出されると、ふたたび3人は走りだし、イワンもそれに加わったという。

音楽が流れた。

パパ 助けてくれ、右手と鼻がまるで左手と耳みたいだ！

全員が次々と舞台を駆け去る。

コーラス (オペラの序曲の旋律に合わせて)

さようなら、さようなら。

II-I

II-I

上で松の木が話をしています  
まわりに暗い話をしています。  
松の木の上ではベッドが話をしています  
ベッドでは夫が寝ています。

さようなら、さようなら

II-I

II-I

あの日私たちが走り着いたのは

I-I 無限の館でした。

上のほうにある窓を眼鏡ごしに

眺めているのは若い老人。

さようなら、さようなら。

II-I

II-I

門が開かれ

現れた I-I

(オペラの序曲) 明りが消える。

### 13. ラジクス

ピョートル・ニコラーエヴィチにスポットライトが当たる。

II.

おまえ自身が壊れている

おまえの椅子が壊れている。

バイオリン

パ パ ピー パ

パ パ ピー パ

P.N.	伯林のように立ちあがれ 山林を駆けめぐれ。 <sup>15</sup>
バイオリン	パ パ ピー パ パ パ ピー パ
P.N.	8分が 気づかぬうちに過ぎ去った。
バイオリン	パ パ ピー パ パ パ パ ピー
P.N.	お勘定はお支払いしましたってば 働き手たちを起こしてください 小隊あるいは中隊をば 機関銃を持ち運べば。
太鼓	I -- I - I -- I - I -- I -- I -- I
P.N.	ぼろきれが飛んでった 来る週も来る週も。
笛と太鼓	ピィィ ドンドコ、ドンドコ ピィィィ ドンドコ。

照明が次第に明るくなる。

P.N.	船長みたいな蒸気の音に 旅鳥娘は気づかなかった。 <sup>16</sup>
笛	ピー、ピー、ピー、ピー

<sup>15</sup> 「伯林のように立ちあがれ／山林を駆けめぐれ」の原文は、「伯林のように立ちあがれ／ケープを羽織らせる *Встань Берлином / надень пелерину*」。明らかに音が呼応しているため、音響的側面を重視して意識した。

<sup>16</sup> 「船長みたいな蒸気の音」とは奇妙な言い回しだが、「旅鳥娘」も謎めいている。いま仮に「旅鳥」と訳した *«сикурая»* という単語は、ロシア語の辞書に存在しない。語尾からそれが形容詞であると推測できるものの、意味は分からない。実はハルムスがこの単語を用いるのは『エリザヴェータ・バーム』が初めてではない。死去したばかりの詩人エセーニンに捧げた1926年1月14日の詩のなかに、すでにこの単語が見られる。音のザウミを多用していた当時のハルムスの作詩法に鑑みれば、これは「身寄りのない *сирая*」と「*куры* 雌鶏」を合成してできた造語とみなすことができる。そのうえで、ここでは「旅鳥娘」と思い切り意識した。なお、英訳者のニール・コーンウェルはこれを“*droopish*”と訳している。やはり特殊な単語だが、「物憂げな」という意味のようだ。彼は *«сикурая»* を「*скучная* 気怠い」の変形と見たのではないだろうか。



ネズミが足の裏で粉を擦り合わせているばかり  
ランプがローズマリーのように光っているばかり  
そして日がな一日ゴキブリがペチカのうえで隠者の  
ように鎮座しています

I.I.

でも誰がランプに火を灯すのですか？

P.N.

誰でもありません。ひとりで燃えるのです。

I.I.

しかしそうそうあることではないでしょう！

P.N.

そんな言葉は空疎で愚かです！

永久運動は存在します

軽やかな元素の呼吸

惑星の運行、地球の回転

昼夜の途方もない交代

人里離れた自然の配合

野生の獣たちの怒りと力

そして光と波の法則の

人間による掌握。

I.I. (マッチに火を点ける)

ようやく私も了解、了解、了解です

ありがとうございます、頭を下げます

それと毎度毎度気になるのですが——

何時ですか？ 教えてください。

P.N.

四時です。あ、お昼の時間だ！

イワン・イワーノヴィチ、行きましょう

ただ忘れないでくださいね、明日の夜

エリザヴェータ・バームが死ぬことを。

パパ (登場)

それはエリザヴェータ・バーム

それは私の娘

それは次の晩

お前たちが殺し 松の木に

吊るそうとしている娘

その美しさは

周囲のすべての獣たちと

国中に知れわたっている。

この腕力をもって

お前たちに命じよう

諸法規に逆らい  
エリザヴェータ・バームのことは忘れよ。  
P.N. 止めてみるがいい  
貴様なぞすぐさま蹂躪してくれる  
そして真紅の鞭でもって  
貴様の関節という関節を粉碎してやる。  
切り刻み、馬乗りになってぶん殴り  
鶏みたいにキイキイ言わせて破滅させてやる<sup>17</sup>。  
I.I. この方は周りのものすべてをお見通しです  
私の主君であると同時に友であり  
翼を一度羽搏かせれば  
海を越え  
斧を一振りすれば  
森も山も真っ二つにし——  
息を一吹きすれば  
もう捕まえるのは困難です。  
パパ 魔法使いめ、いざ勝負だ  
お前は言葉で、私はこの手で  
一分が過ぎ、一時間が過ぎ  
さらに一時間が過ぎるだろう。  
お前が斃れても、私が斃れても  
そこでは万事しめやかに運ぶ  
だが喜ぶことになるのは私の娘  
エリザヴェータ・バームだ。

15. <sup>バラッド</sup>物語詩の情熱

## 両雄の決闘

舞台に二個の小卓が運ばれる。

I.I. 両雄の決闘！

---

<sup>17</sup> 「鶏みたいにキイキイ言わせて破滅させてやる *пушу по ветру петухом*」。「破産させる *пустить по ветру*」と「キイキイ声を出す *пустить петуха*」という二つの熟語が合わさっていると解釈し、意識した。

テキスト——イマヌイル・クラスダイテーイリク。<sup>18</sup>  
音楽——オランダの羊飼い、ヴェリオパーク。  
振付——無名の旅人。  
鐘の音が始まりを告げる！

場内の端々からの声

両雄の決闘！  
テキスト——イマヌエル・クラスダイテーイリク！  
音楽——オランダの羊飼い、ヴェリオパーク！  
振付——無名の旅人！  
鐘の音が始まりを告げる！  
両雄の決闘！

鐘  
P.N.

云々かんぬん。  
ゴーン、ゴーン、ゴーン、ゴーン、ゴーン。  
クルィブィール ダラムール  
ドゥイーニジリ  
スラカトィーリ パカラーダグ  
ダ キー チーリ キーリ キーリ  
ザンドゥジーラ ハバクーラ  
ヒェエエリ  
ハーンチュ アナー クドゥイ  
ストゥーム チ ナ ラークドゥイ  
パラ ヴィ ナ ルィイチェナ  
ヒェエエリ  
チャープ アーチャパーリ  
チャパータリ マール  
ナバローチーナ  
ヒェエエリ (手を挙げる。)

パパ

翼ある鸚哥よ  
遙か太陽まで飛翔するがいい  
金色に輝く春の日よ  
かき曇るがいい。  
蹄の響きと轟きよ

---

<sup>18</sup> イマヌイル・クラスダイテーイリク Иммануил Красдайтейрик (2, 262) は、ダニエル・ハルムス Даниил Хармс とその仲間イーゴリ・バーフテレフ Игорь Бахтерев のアナグラムである (KはXとГに対応)。

森を切り拓くがいい  
巨大な衣装箱は  
軋む馬車から下げ降ろせ。  
と、卓に着座する騎士は  
剣に手をかけつつ  
盃を掲げ、それから  
盃を前に大音声をあげて言う。  
歓喜にわななく我が唇に  
この盃を運び  
最良のものに乾杯する  
エリザヴェータ・バームに。  
白く瑞々しい その手が  
我が胴着を愛撫した…  
エリザヴェータ・バーム、生きろ  
十万年の時を生きるのだ。

P.N.

さあ、始めさせてもらいましょうか。  
しっかりついて来てくださいよ  
われらのサーベルのゆらめきに。——  
一方が切っ先を突きだせば  
もう一方がその突きを受けとめる。 ——一撃。  
ここで左からの攻撃です！

I.I.

パパ（攻撃する）

脇に切りつけ、右を断つ  
よけられるものならよけてみろ！  
すでに辺りは櫛の森がさざめき  
生い茂る庭園に囲まれている。

P.N.

よそ見するな  
鋼鉄の中心の動きと  
絶大な力の集中に  
もっと目を凝らしたらどうだ。

パパは朗読する調子で<sup>レイピア</sup>刺突剣を掲げ、振る。

パパ

誉れあれ鉄よ——カーボランダムの石よ！<sup>19</sup>

<sup>19</sup> 未来派詩人クルチョーヌイフの詩『化学の飢え。カーボランダムの石のバラッド』（1923年）に因んでいる。『理知のむこう』第2章を参照のこと。

それは道を舗装し  
かつ電光の如く輝き  
息絶えるまで敵を苛む！  
誉れあれ鉄よ！ 戦の賀歌！  
掠奪者を狼狽させ  
洩垂れを若者に変え  
息絶えるまで敵を苛む！  
おお、戦の賀歌よ！ 栄えあれ羽根よ！  
それは宙を舞い  
瞳を疑心で埋め尽くし  
息絶えるまで敵を苛む！  
おお、栄えあれ羽根よ！ 石に叡智を。  
その石は厳格な松の木の下に眠っている  
その下から水が湧き 流れゆく  
斃れた敵のほうへ。

ピョートル・ニコラーエヴィチが倒れる。

P.N.

打ちのめされ、地に倒れ伏した  
さらばだ、エリザヴェータ・バーム  
わが山上の小屋へ行き  
そこで後ろざまに倒れるがいい。  
そうすればお前の体と  
お前の腕を  
耳の遠いネズミと、そして  
隠者のゴキブリが駆け回るだろう。

鐘が鳴る。

聴こえるだろう、鐘が鳴っている  
屋根の上でビームバームと。  
許せ、すまなかった、  
エリザヴェータ・バーム。  
両雄の決闘は  
決着がつかしました。

I.I.

ピョートル・ニコラーエヴィチが運び出される。

\*\*\*

## 16. 時計塔

El.B. (登場)

なあんだ、パパ、ここにいたのね。よかった組合のところへ行ってきたばかりなのキャンディを買ってきたところなのよお茶にケーキがあればよかったわね。

パパ (襟のボタンを外す)

やれやれ、すっかりへとへとだよ。

El.B.

あら、何してたの？

パパ

実は…薪を割ってたんだ

だからひどく疲れてしまっただけ。

El.B.

イワン・イワーノヴィチ、一杯飲み屋へ行ってビール一本とエンドウ豆を買ってきてくださるかしら。

II.

了解です、エンドウ豆とビール半本ですね飲み屋へ行って、そこからここに。

El.B.

半本じゃなくて、一本です

それに飲み屋じゃなくて、エンドウ豆へ行くんです！

II.

いま、毛皮外套を一杯飲み屋に隠すところで、半豆を頭にかぶります。

El.B.

もう、ちがいます。でも急いでくださいパパが薪を割るのに疲れちゃったんです。

パパ

ああ、女ってやつは。女には考えが足りない考えのなかの女は何も持ってない。

## 17. 生理学的情熱

ママ (登場) 同志よ。コノ腐レギッタ女メガアタシノ息子ヲブチ殺シダノギャア<sup>20</sup>。

袖幕から頭が二つ覗く。

---

<sup>20</sup> 原文は「Маво сына эта мержавка уюкосыла」。表記がかなり乱れているため (Моегоが Маво に変形するなど)、それ相応の日本語にした。

頭 誰が？ 誰が？

ママ コノ女ダ、コンナ唇シヤガッタ女！

El.B. ママ、ママ、何を言ってるの？

イワン・イワーノヴィチがマッチに火を点ける。

ママ アノ子ノ一生ガ無ニ帰シタノハ全デオマエノゼイダ。

El.B. ねえ、誰のこと言ってるの？

ママ (石のように無表情な顔で) アイヅラ！ アイヅラ！ アイヅラ！

El.B. ママがおかしくなった！

パパがスカーフを取りだし、その場で踊る。

ママ アタシハ鳥賊。

背景が田園風景から部屋へと変化しはじめる。袖幕がパパとママを迎え入れる。

El.B. 今にあいつらが来るわ。わたし、何しちゃったんだろう！

ママ  $3 \times 7 = 81$ .

18. リアルで無味乾燥で正式な断章。

舞台は最初と同じ。

El.B. あいつらはきっと来るわ。わたしを捕まえて、殺しに来るわ。逃げるのよ。逃げないと。でもどこへ？ このドアは階段に通じてるけど、階段であいつらと鉢合わせちゃう。窓は？ (窓を見る。) うわあ、跳びあがっても駄目ね。あんまり高すぎるもの。じゃあどうすればいいの？ あ！ 足音！ あいつらだわ。ドアを閉めて、開けないようにしなくっちゃ。好きなだけ叩かせておけばいいわ。

ドアを閉める。

ドアをノックする音、それから声

エリザヴェータ・バーム、法の名において、ドアを開けるよう命じます。

沈黙。

一人目の声 ドアを開けるよう命じます！

沈黙。

二人目の声 (穏やかに) ドアを壊しましょう。

一人目の声 エリザヴェータ・バーム、開けなさい。さもないと打ち破りますよ！

El.B. わたしをどうするつもり？

一人目 あなたは厳罰に処せられるのです。

El.B. どうして？ なんてあんたたちは、わたしが何したのか教えてくれないの？

一人目 あなたには、ピョートル・ニコラーエヴィチ・クルペルナーク殺害の嫌疑がかかっています。<sup>21</sup>

二人目 あなたはその報いを受けるのです。

El.B. でも誰も殺してないわ！

一人目 それは法廷が決めることです。

エリザヴェータ・バームがドアを開ける。ピョートル・ニコラーエヴィチとイワン・イワノヴィチが入ってくる。二人は消防士に扮している。

El.B. あんたたちの言うなりなのね。

P.N. 法の名において、あなたは逮捕されます。

I.I. (マッチに火を点ける) ついて来なさい。

## 19. 終曲

El.B. (叫ぶ) 縛りなさいよ！ 三つ編みを引っ張りなさい！ わたしと桶を糸で結べばいいわ！ わたしは誰も殺してなんかない！ 誰も殺すことなんてできないわ！

袖幕、物、背景、人の動き。

P.N. エリザヴェータ・バーム、静かにしなさい！

---

<sup>21</sup> 「クルペルナーク Крупернак」という名字は「クルチョーヌィフ Крученных」と「パステルナーク Пастернак」を彷彿させる。ハルムスは戯曲執筆の前年に、ヴヴェージェンスキーとの連名で、パステルナークに自作の詩と手紙を送付している。

- I.I. 見なさい、はるか前方を。(大きなしゃっくりをする。)
- El.B. 山の上に小屋があつて、中ではもう明りが灯つてるわ。ネズミがひげをふるふると震わせてる。ペチカの上ではゴキブリ・ゴキブリノヴィチが、赤い襟のシャツを着て、両手に斧を構えてる。
- P.N. エリザヴェータ・バーム。じつと見るのはやめ、腕を伸ばして、私について来なさい。関節のバランスを保ち、アキレス腱を喜ばせてやるのです。私について来なさい。

ゆっくり退場。

暗くなる。

幕

1927年12月12-24日